

色紙を書く（8）

締切り 八月二十五日（必着）

奥村憲照先生書



〔読み〕 一陽来復^{いちようらいふく}

〔大意〕 冬が去って春が来ること。転じて、悪いことが続いた後、よ

うやく状況が好転すること。

※壬戌^{じんじゅつ}は一九八二年の干支、今年^{おつひ}は乙未です。

◎暮らしの中で一番身近で、親しみのある「書」といえば『色紙』ではないでしょうか。
◎家の玄関や応接間、お店や事務所など、至る所で様々な色紙を見かけます。

◎お祝いや記念にプレゼントしたり、揮毫を求められたりする機会も少なくありませんが、いざとなると、中々うまく書けないものです。

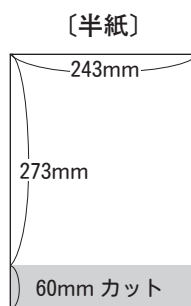
◎創立六十周年の今年は、奥村憲照先生の色紙作品を鑑賞するとともに、色紙の書き方を学びます。

◎色紙は特に、執筆者の個性が重んじられます。あまり手本にこだわらず、自己表現するつもりで自由に楽しんで書きましょう。

□作品の出し方

▼毛筆部Ⅱ左図のように半紙を六〇mmカットして書いて下さい。これが一般的に使用される大色紙のサイズ（二七三mm×二四三mm）になります。

※本物の厚紙の色紙はかさばるため、使用しないで下さい。（色紙練習用の薄手のものは可）



▼硬筆部Ⅱ右の大色紙を四分の一にすると、寸松庵色紙のサイズ（一三六mm×一一一mm）になります。

このサイズの紙を作るか、B5判の用紙に枠を引いてお書き下さい。用具は自由ですが、太目の筆記具（フェルトペン・マッチ棒・割り箸等）がよいと思います。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績（硬筆の場合は硬筆規定の成績）を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

一般部規定課題

締切り 8月25日(必着)

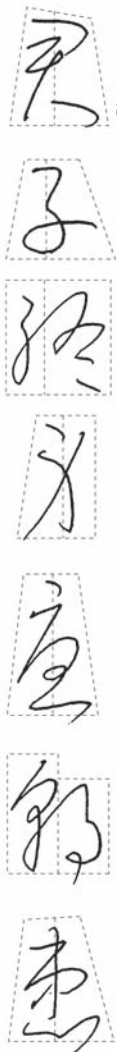
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

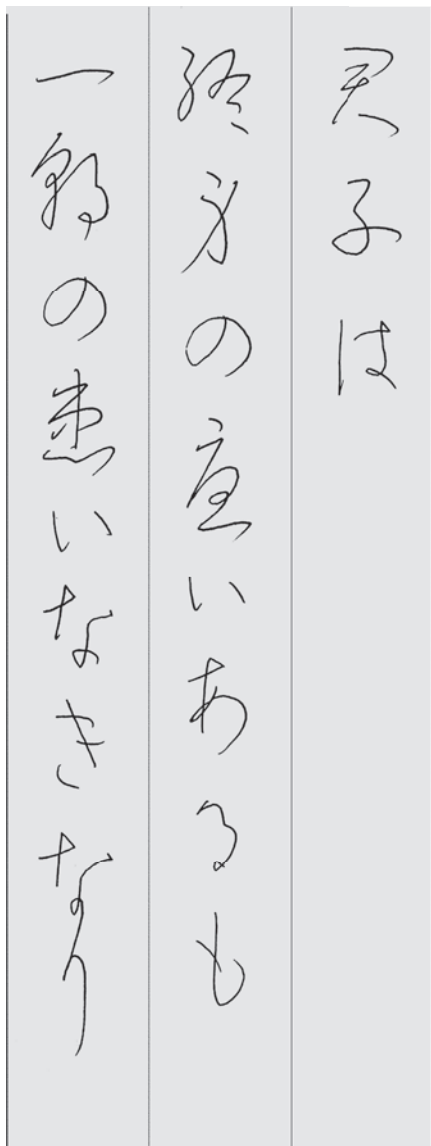
〔解説〕

〔読み〕君子は終身の憂いあるも一朝の患いなきなり



◎ITの急速な進展で今やパソコンで書ける時代となり、更に草書となると使用が非常に少なくなってきた。しかし、書を学ぶ者としては大切。目習いで文字を確実に把握して、崩れない速度で書く

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

	必	遠
	ず	慮
論	近	な
	憂	け
語	あ	れ
	り	ば



少し小さく

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★遠慮…（書体Ⅱ行書）

「論語」四書の一つ。孔子とその弟子たちの言行録。儒家の經典。

「遠慮」とは、気がねとか控え目のことではなく、遠い先々まで見通して考えること。

目先のことばかりで遠い将来のことを考えなければ、近いうちに必ず心配事が起こる、という意味です。心したものです。

◆9月課題予告（楷書）

真の賢者は

己の愚を

知る者なり

★君子は…（書体Ⅱ行草または草書）

「孟子」四書の一つ。孔子の道を継承した孟子と弟子との言行録。

君子の終身の憂いとは、「舜は天下に模範を示して後世によい影響を与えたのに、自分は平凡な俗人にすぎない」ということを指しています。舜を見習いそのレベルに近づこうと努力をしていれば、ある日起きた些事に悩むことはないのです。

◆9月課題予告（行書）

魅力は目を奪うが
立派さは心を奪う

ポーズ

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

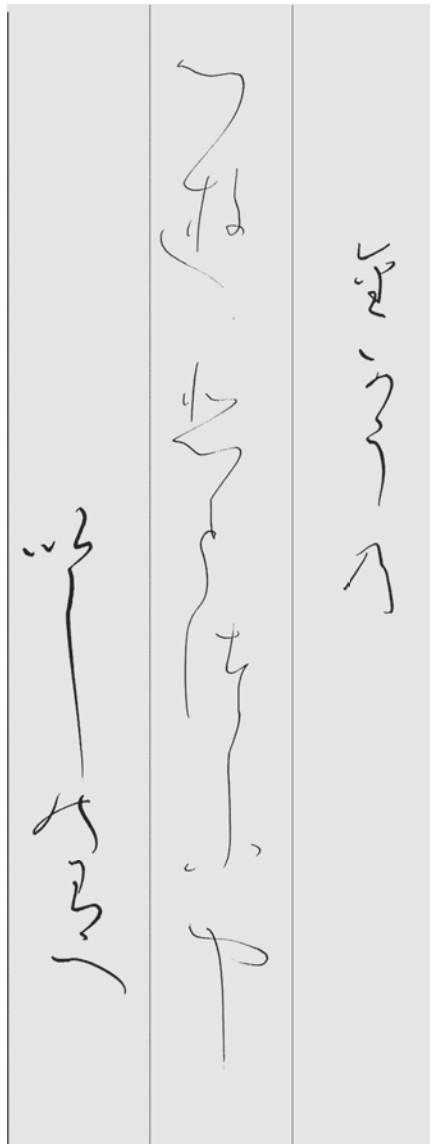
一般部かな課題

締切り 8月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

金剛^{可う}の露^{乃つ}ひとつ^{遊悲}ぶや石^徒の上^{以し能有へ}



金剛^{能う}の露^へひとつ^へぶや石^への上^へ

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

	や	
	ひ	
	と	き
	つ	石
石	ふ	の
は	や	
い		
へ		

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆9月課題予告

案山子^{かさね}翁^{おきな}あち見^みこち見^みや芋^{いも}嵐^{あらし}

(阿波野青畝^{あわのせいほ})

有^う 能^の 以^い 徒^つ 悲^ひ 遊^ゆ
有 能 以 徒 悲 遊
有 能 以 徒 悲 遊
有 能 以 徒 悲 遊
有 能 以 徒 悲 遊
有 能 以 徒 悲 遊

〔古筆参考〕

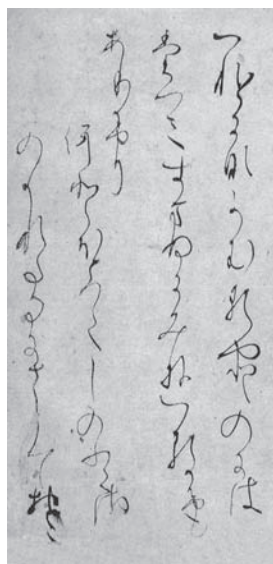
〔句意〕黒々とした庭石の上に、白く
光り輝くひとつぶの露が載っている。
その露は、くっきりとした輪郭で、
あたかも金剛石のように堅固な姿で、
すがすがしい、澄んだ秋気の中で光を
投げかけていることである。

金剛^{こんがう}の露^{つゆ}ひとつ^へぶや石^{いし}の上^{うへ}

(川端茅舎^{かわばたぼうしゃ})

〔古筆参考〕

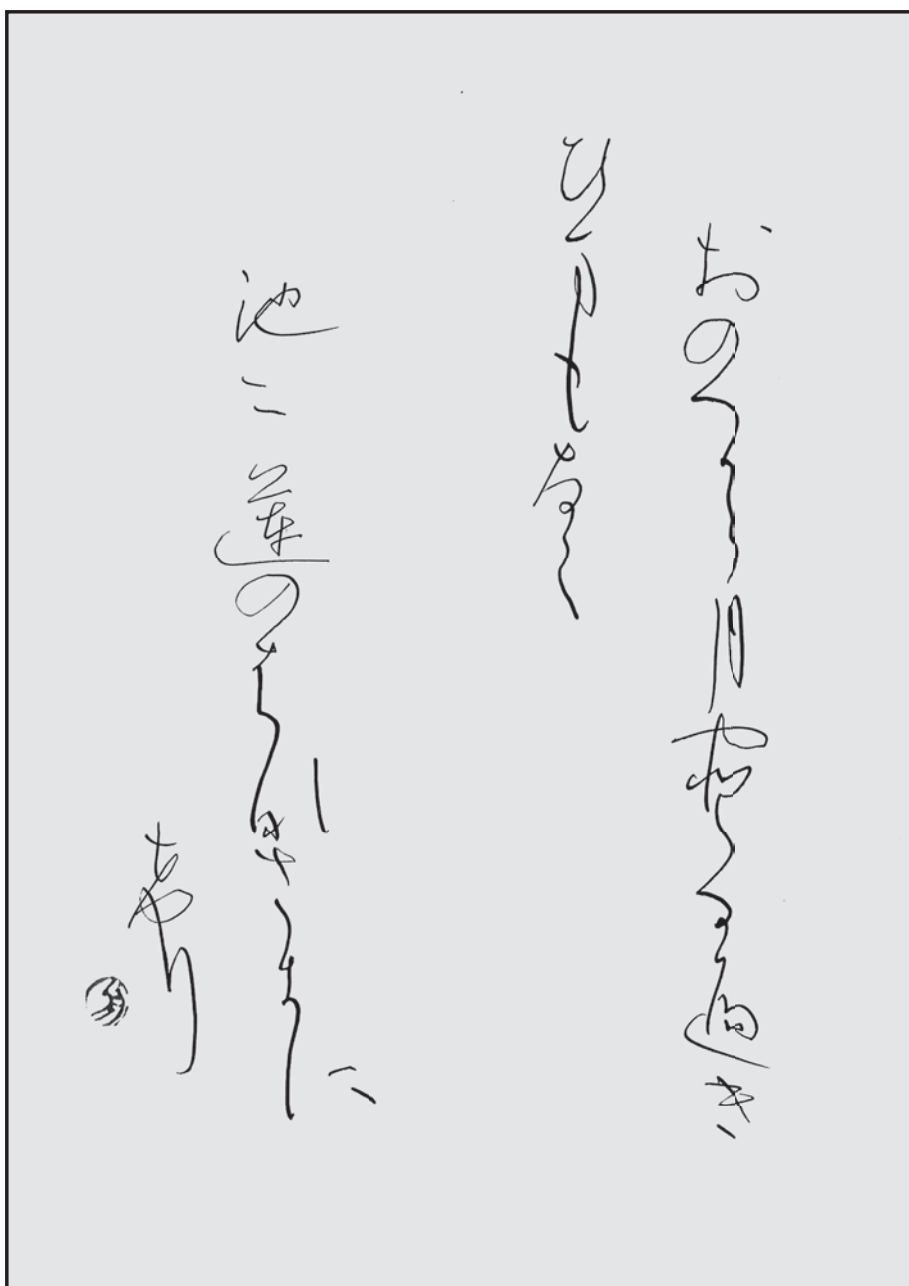
いちじょうせっしょうしゅう
一条摂政集



つれづれにながむるやどのには
アル那可類登尔
 堂三万尔遊類可希
 たづみすまぬにみゆるかげも
 利希
 ありけり
 伊登本弓
 いとほどへて、しのぶぐさ
可多尔
 のかれたるにさして、おとど

締切り 八月二十五日（必着）

築瀬舟香書

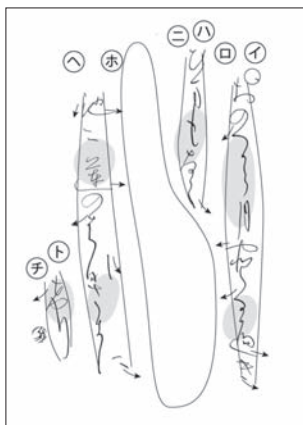


池に蓮の花咲きにけり
 おのづから月宿るべきひまもなく

〔歌意〕夕立が晴れると、水に浮かんでいる蓮はちすの葉が、その上に置いた雨滴うてきの玉をゆらゆら揺り動かし、月がその玉に宿っているよ。

〔出典〕山家集（新潮日本古典集成）

〔解説〕



- 「お」の点の位置大切。
- ↓線の指向性大切。(余白に働きかける)
- 行の中の密大切。
- 余白(間)大切。

◆9月課題予告

乱れ咲く野辺の萩原はぎはら分け暮れて
露にも袖を染めてけるかな

実用文 のページ

はがき課題

おく だ み くも
奥 田 三 雲 書

締切り 8月25日(必着)

▼今回は、はがきの表書きを学びます。
住所・氏名は自由です。
▼郵便番号の枠はないままで結構ですが、構成上書きづらい場合は、原寸大の右手本を敷き写しするなどして下さい。
外枠だけの省略した形でも構いません。
▼書く順序は、まず宛て名を中央に一番大きな字粒で書きます。次に宛て先を二番目の大きさで書きます。差出人の住所は一番小ぶりに書きます。

■ 作品の出し方
■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
■ 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
■ 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
■ 両課題とも、書体変換は自由です。

◎手本は水性ボールペン使用

郵便はがき

145-0072

大田区田園調布本町
ミニーナ
松岡修蔵様

松江市美保関町笠浦
錦織圭一

690-1223

横書き課題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

鶴匠は風おれ帽子に腰みのという
古式豊かな衣装をつけています。

青森県八戸市 氏 名

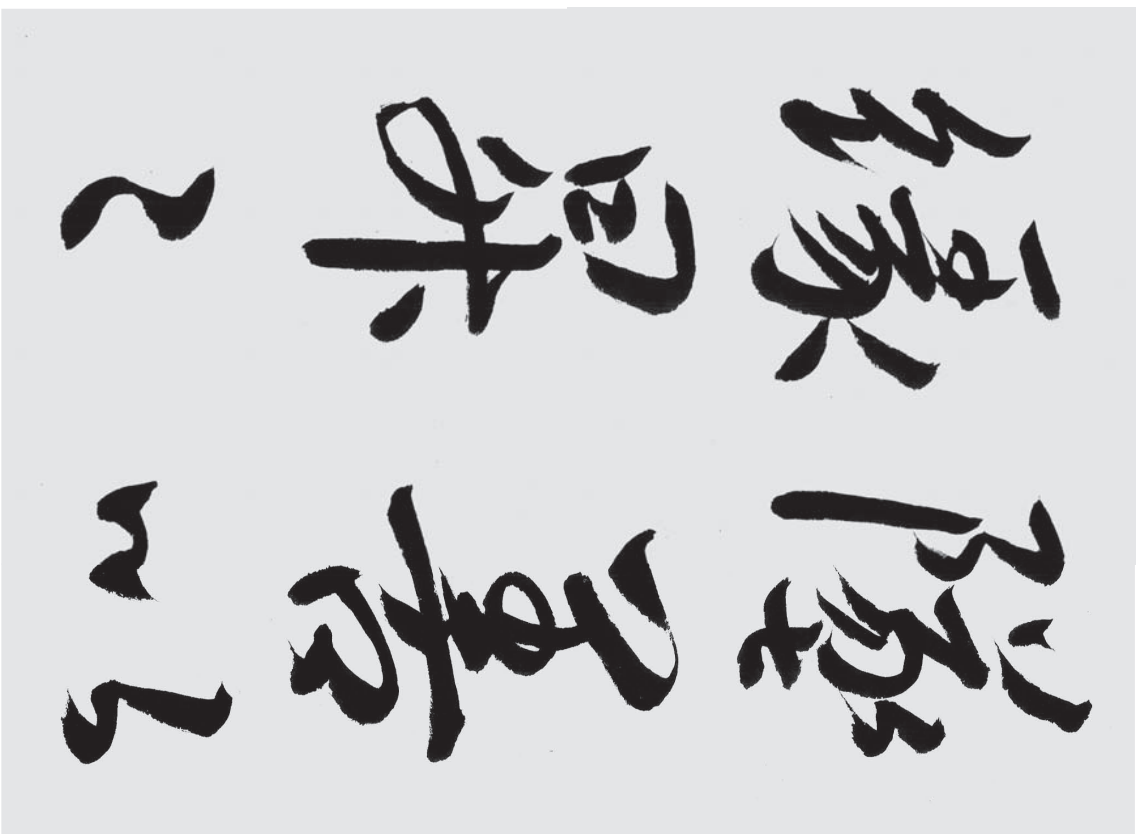
※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 8月25日(必着)



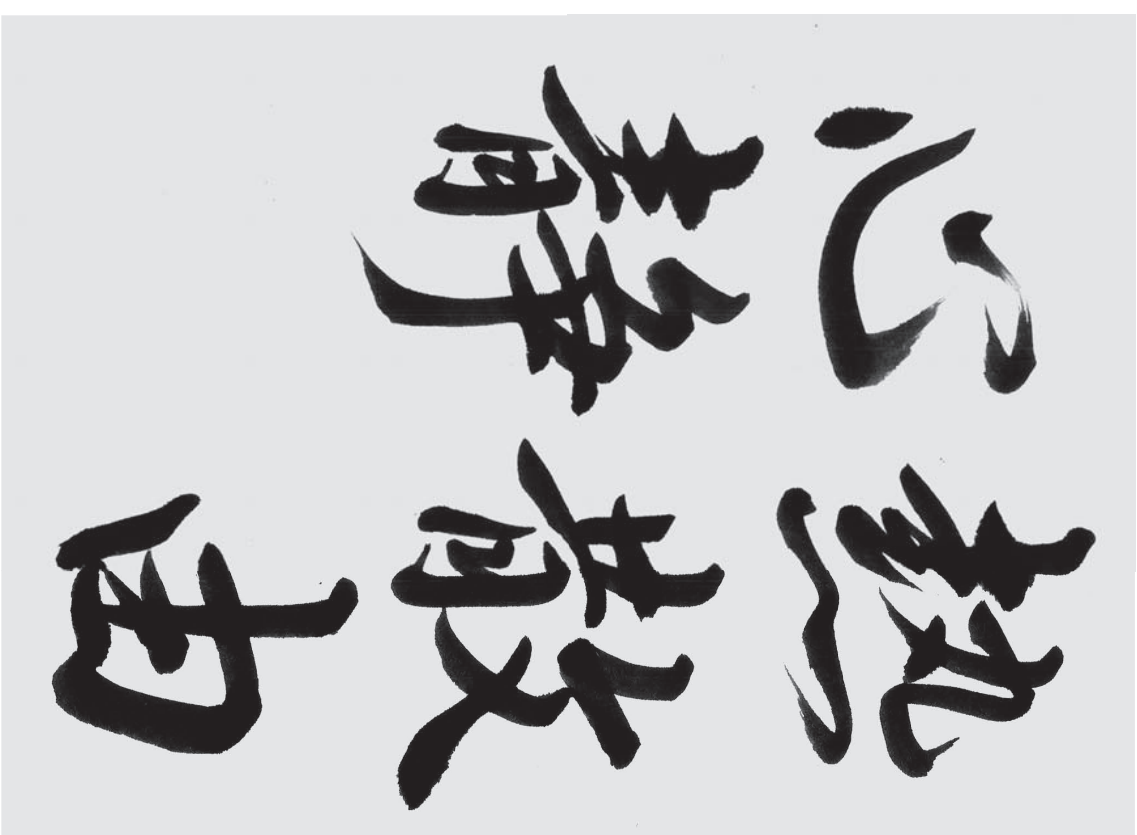
墜 善 以 縁 昇



〔出典〕 集字聖教序（672） 〔筆者〕 王羲之法書より集字
 〔読み〕 （業に因りて） 墜ち、善は縁を以て昇り、昇（墜の端は、）

準初段から師範まで

奥村暢之 臨
 おくむらたのぶゆき



新入から1級まで（行書）

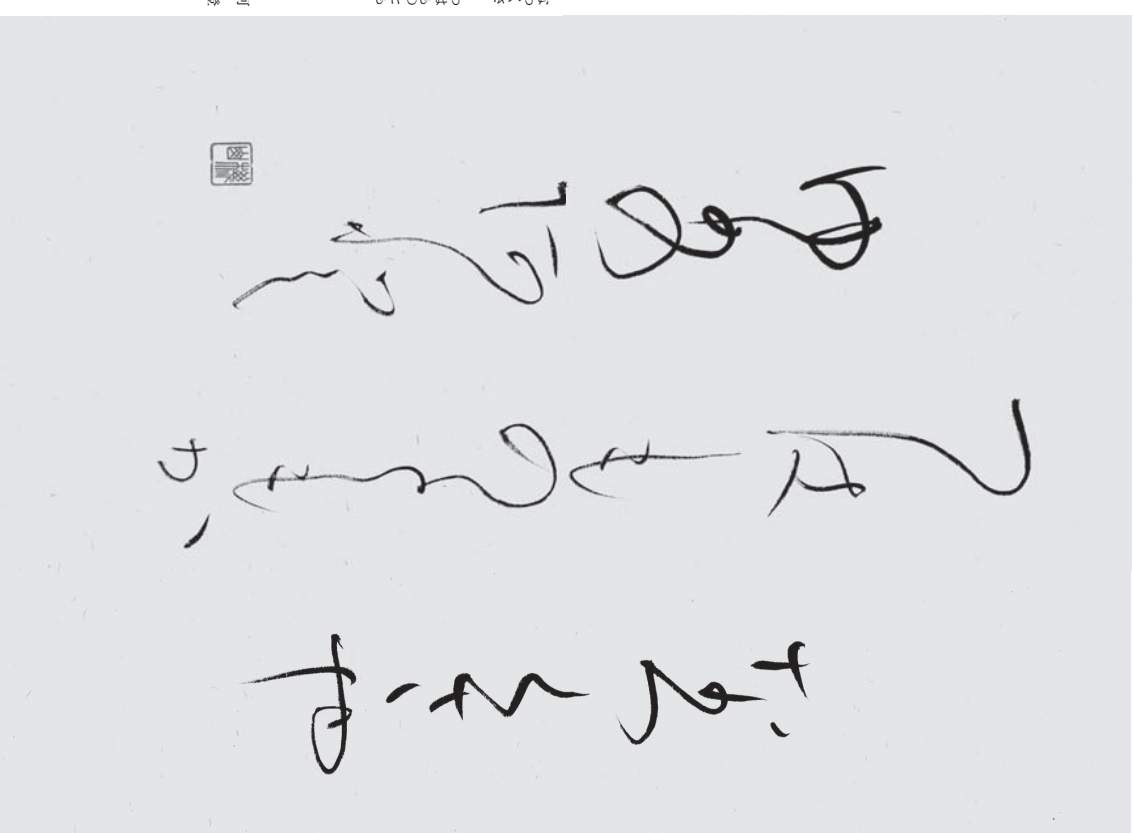
須田一葉 書
 すだいちよう

〔読み〕 熱散ずるは心の静かなるに由る
 〔大意〕 心静かにしていると自ずから熱さもやわらぐ。

一般部毛筆かな課題

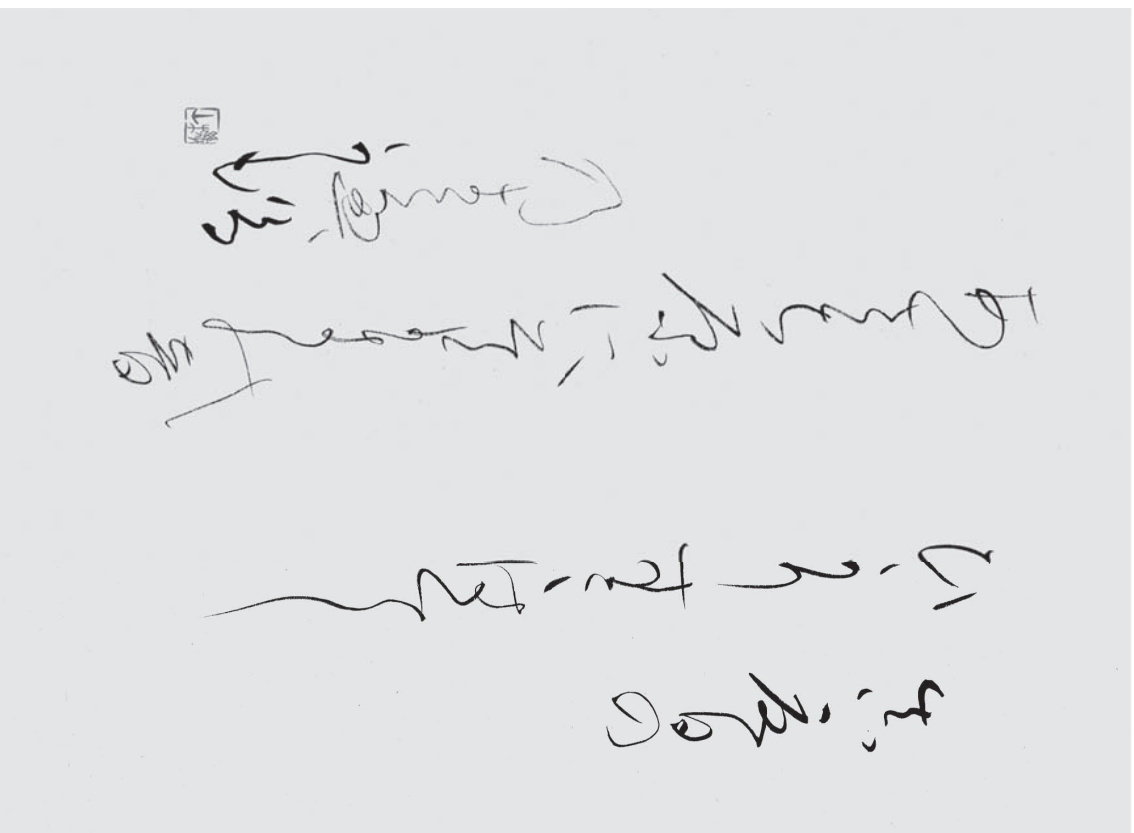
締切り 8月25日(必着)

新入から1級まで



浅井 健二 先生 書

準初段から師範まで



■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

夏草や 兵共がゆめのあと
なぐさ へはものども 阿 登

【出典】 松尾芭蕉

【句意】 杜甫の春望の「国破れて山河在り、城春にして草木深し」の詩

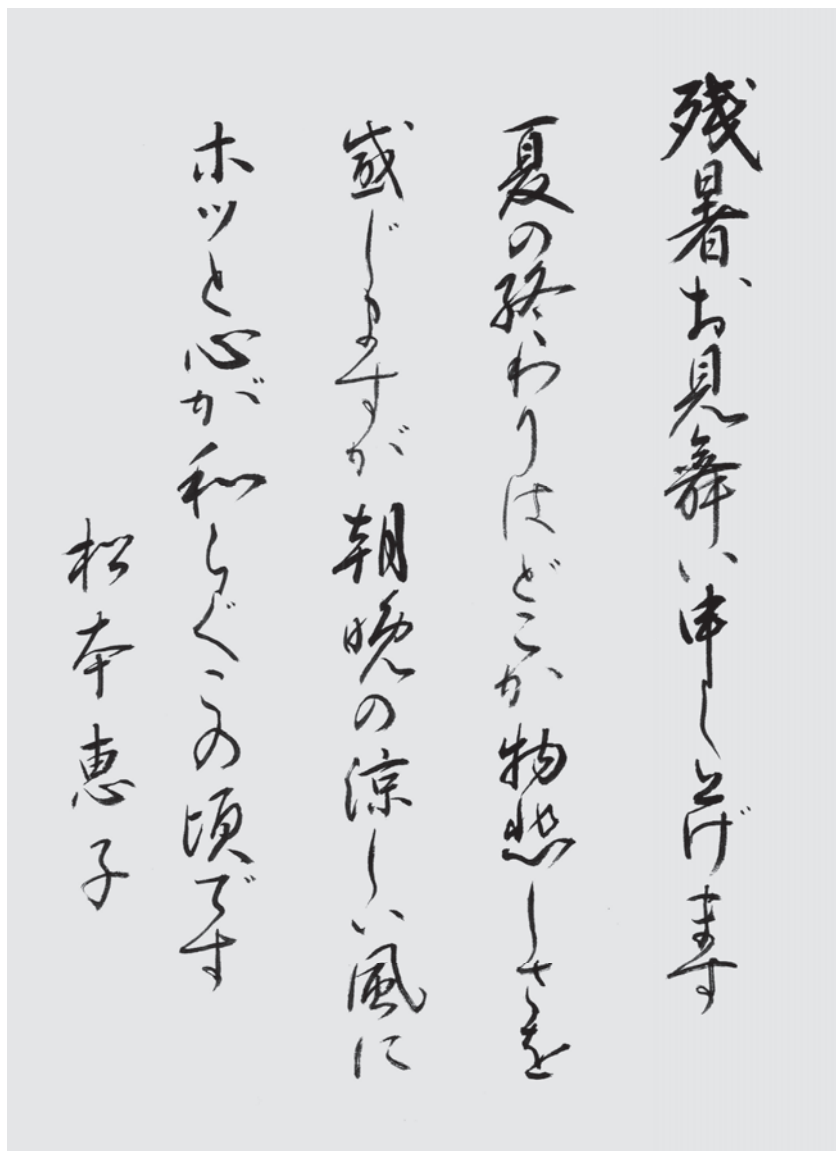
句を思い、栄枯盛衰の感慨を詠んだ。勇士達の功名も一時の夢となり夏草だけが生い繁っている。

【出典】 斎藤茂吉

【歌意】 真夏日の光がしんと遠く彼方にまで澄み渡っている浅茅（丈の低い茅）の原に、茅のそよ音がさやさやと聞えていることよ。

真夏日のひかり澄み果てし浅茅原に
文能 三 は 文乃 支 能 三 介 可
そよぎの音のきこえけるかも

一般部毛筆細字課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

樋田玲華 書

一般部毛筆条幅課題



締切り 八月二十五日 (必着)

半切 (126 cm × 35 cm)

萩田蒼仙 書

志在千里

乙未夏日 蒼仙迂人書

〔大意〕志、目標は高く持つ。生活は低く理想は高くの語を思い出します。

初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ず書き下さい。

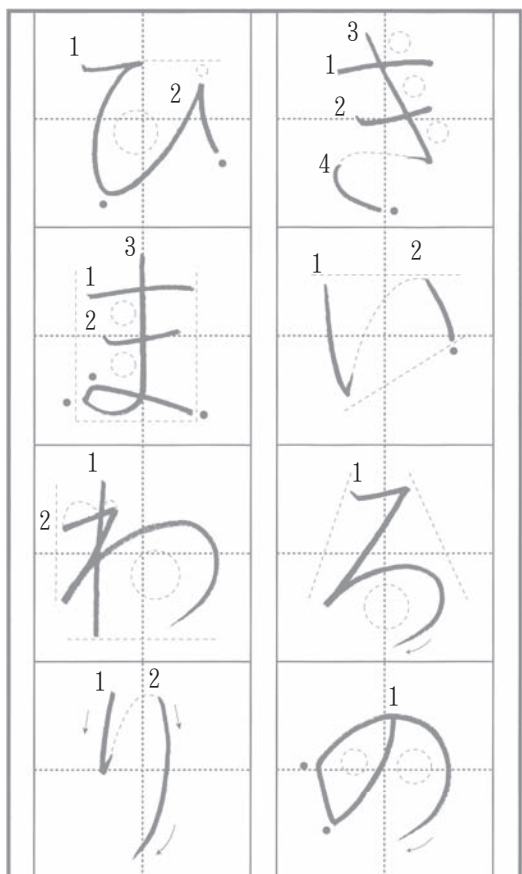
〔条幅解説〕少字数は初歩かベテランの仕事、余白に負けない為大きく書く……そんなものではないかもしれません。重厚な伸びのある線等諸々の要素が必要ですが、先ずは挑戦してみる事です。目標を指していればいつか辿り着きます。私はそう思って書いています。

- 残暑お見舞い申し上げます
- 夏の終わりはどこか物悲しさを
- 感じますが朝晩の涼しい風に
- ホッと心が和らぐこの頃です
- () 自分の氏名
- ・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

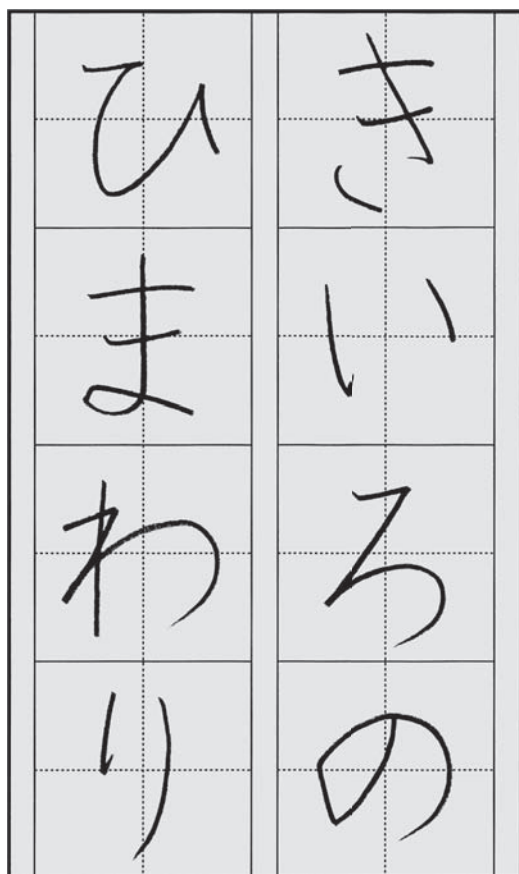
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)



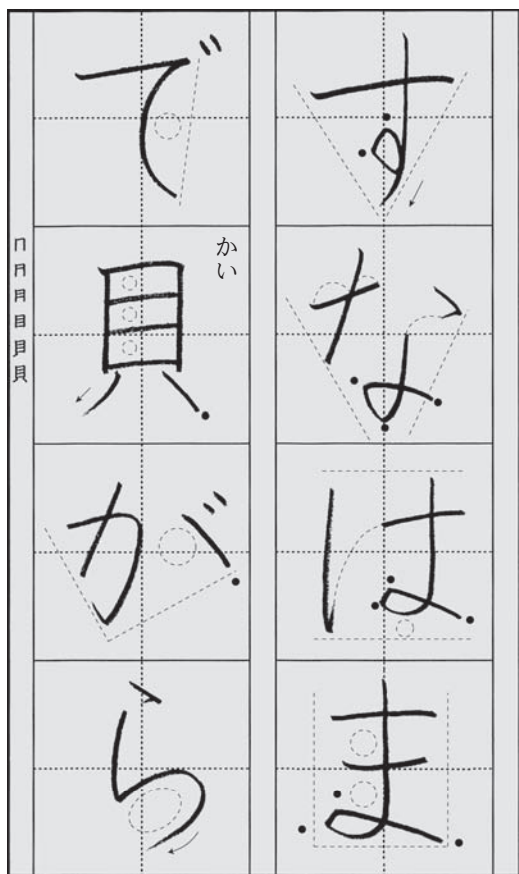
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



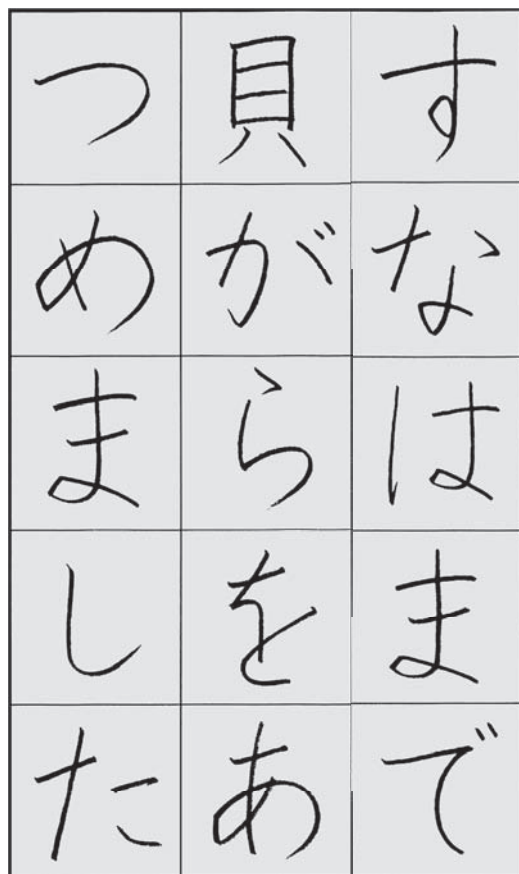
よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

の	風	かぜ
い	で	
ね	水	スイ
が	田	デン

リハハ風風風
リオオ水
リハ田田田

新入1級

ゆ	田	強
れ	の	い
て	い	風
ま	ね	で
す	が	水

小二年

準初段以上

整	戸	と
理	た	
す	な	
る	を	

セイ
リ
セ
リ

新入1級

に	な	部
整	を	屋
理	き	の
す	れ	戸
る	い	だ

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

湯	と
飲	う
み	芸
を	で

新入〜1級

飲	の	と
み	置	う
を	物	芸
作	や	で
る	湯	犬

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

事	司
快	会
引	者
受	仕

解説(よく見て習いましょう)

き	事	司
受	を	会
け	快	者
ま	く	の
す	引	仕

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

宇宙	望
探	遠
査	鏡
機	宇

解説(よく見て習いましょう)

見	宙	望
つ	探	遠
け	査	鏡
ま	機	で
す	を	宇

小六年

(全員)

興	街	立
味	頭	候
を	演	補
抱	説	者
く	に	の

中二・三年

(行書)

動	内	今
が	の	週
始	美	か
ま	化	ら
る	運	校

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 いけ 池 がみ 上 こう 紅 えん 苑 書

か	頭 あたま	タ	飲 の	夏 なつ
ぶ	に	オ	み	の
ろ	は	ル	物 もの	お
う	ぼ	持 も	と	出 で
	う	っ		か
	し	て		け
	を			は



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 8月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 さ 佐 とう 藤 ほう 芳 らん 蘭 書

星 ほし	明 あか	は	こ	夏 なつ
を	る	く	と	の
結 むす	く	ち	座 ざ	大 だい
んだ	輝 かがや	よ	わ	三 さん
形 かたち	三 みつ	う	し	角 かく
	つ	座 ざ	座 ざ	は
	の	の		

◎お手本はつけペン使用

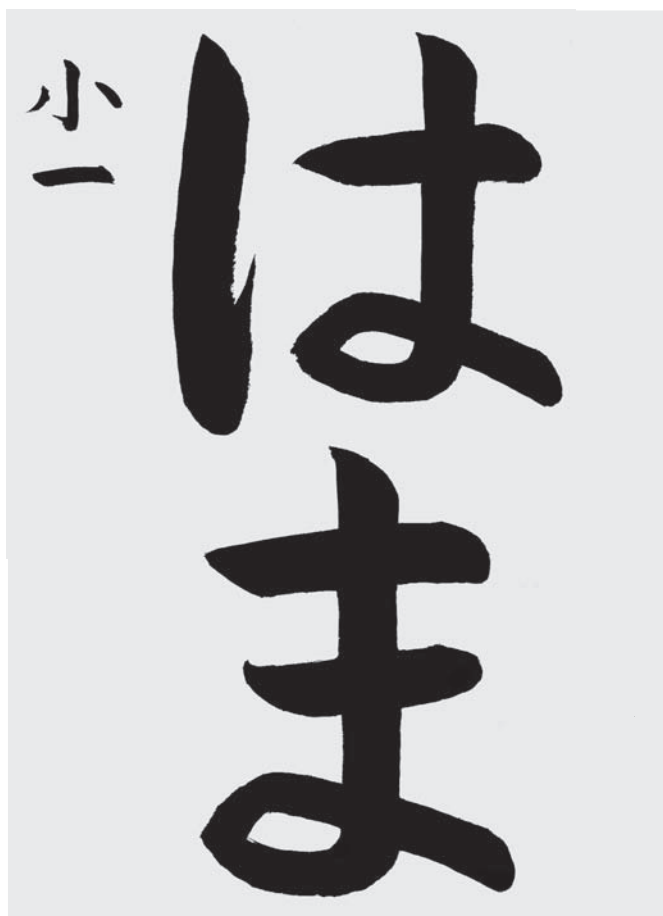
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年

玉樹小
華書





小三・小五年

水野香竹書

中二・三
演街
説頭

望鏡
遠
小六

動 望
街 鏡
説 運

中一
運 美
動 化

小六・中二・三年

奥村暢之書